



Racing Specialities

アストロ・ジーエックス

Astro GX

取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です、国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のために守って頂きたいこと

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合っていないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる!」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



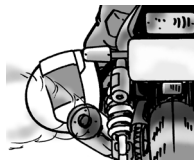
▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットカバーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

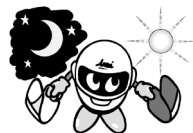
あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れてあご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれを発見した場合は、あご紐の修理を弊社品質管理課までご依頼ください。※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

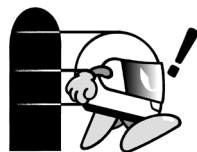
▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

周りが暗くなってきたにも関わらずスモークシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のアライヘルメット純正クリアーシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調整するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を中性タイプの食器洗い洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。カバーやダクト等の樹脂成型品の塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。尚、ヘルメットを構成する部品（衝撃吸収ライナや窓ゴム・縁ゴム等）をバラバラに分解して塗装するのは、絶対にお止めください。



▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさなでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や衝撃吸収ライナに孔をあけたり、削ったりするのは絶対におやめください。



▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

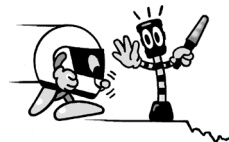
ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。



※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。

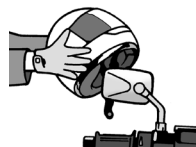
▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なもので、この限りではありません。



▼ヘルメットをミラーに引っ掛けしないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナが変形するおそれがあり、変形したライナは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメットの縁ゴム※を傷付け、それをきっかけに縁ゴムが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。



※縁ゴムは帽体の裾部をカバーして、転倒時に首や肩などを傷つけることを防ぎます。

▼長期間ご使用の場合は樹脂成型品の点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型品は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、カバーやアーム、ワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、早急にパーツの交換を行ってください。



▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のSGマーク被害者救済制度



▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態でも1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。

※例えば1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。



▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、齧る^{げっしるい}場合によっては内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数値等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。



▼窓ゴムや縁巻き（縁ゴム）に生じる粉吹き現象について

窓ゴムや縁ゴムに生じる白い粉状のものはブルーム（ブルーミング現象）で、空気中に含まれる酸素やオゾン・紫外線などにより、ゴムに添加された配合剤が表面に浮き出して白い粉状に結晶化したものです。この結晶化したブルームは、水やぬるま湯を含ませた柔らかい布で簡単に拭き取ることができます。機能上問題はありませのでヘルメットを安心してお使いください。

▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について※シールドを装備したヘルメットに限ります。

シールドは、ポリカーボネート樹脂を原料とする「金型射出成型」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

▼ベンチレーションダクトについて※ベンチレーションダクトを装備したヘルメットに限ります。

●ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。

●トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋を強く閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。

●暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

▼つや消し塗装のヘルメットについて

●つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの食器洗い洗剤を水で薄めてご使用ください。

●つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。

●つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

▼ヘルメットのお手入れにご使用になる洗剤について

頑固な油污れ用の【アルカリ性洗剤・弱アルカリ性洗剤】、バス・トイレ用の【酸性洗剤】はヘルメットのお手入れに絶対に使用しないでください。使用した場合にはヘルメットを破損して、その機能を損なうおそれがあります。

pH (水素イオン指数)	3以下	3以上～6未満	6以上～8未満	8以上～11未満	11以上
液性	酸性	弱酸性	中性	弱アルカリ性	アルカリ性
ヘルメットへの使用	×	×	○	×	×

ヘルメットに、中性以外の洗剤はご使用頂けません。



ヘルメットのシールドやベンチレーションダクト、カバー等の樹脂成型品のお手入れには【中性タイプの食器洗い洗剤】を、ヘルメットの内装のお手入れには【中性タイプの洗濯洗剤】を推奨しています。しかし、たとえ液性が中性であっても使用する状況や条件によって樹脂成型品を破損させるおそれがありますので十分ご注意ください。

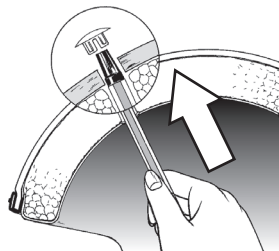


樹脂成型品に中性洗剤の原液を直接掛けたり、洗剤を溶かした水の中に長時間漬け込んだり、洗浄後の洗剤成分の除去が不十分だった場合、洗剤成分が樹脂成型品に浸透して亀裂や割れを生じさせる原因となります。中性洗剤をご使用後は、樹脂成型品に洗剤成分を残さないように流水でよく洗い流してください。

▼ドレンキャップの外し方 ※ドレンキャップを装着したヘルメットに限ります。

ヘルメット内部の天井部分の穴（ドレンホール）にキャップ式ボールペンの軸をさし込み、衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）を傷つけないように注意しながらドレンキャップをゆっくりと押し出してください。尚、取り外したドレンキャップは小さいので紛失にご注意ください。

ドレンホールは、オプションダクトの取り付けや、洗った後の水抜きに利用します。



シールドカラーの選び方



晴天

晴れた日の日中は、陽射しや路面の照返しの眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が明るい状況時に限りご使用ください。



曇り・雨

曇りや雨天の走行には、クリアシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方・夜

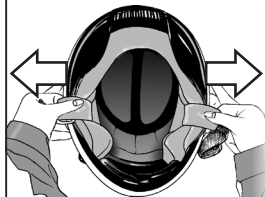
夕方や夜にはクリアシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアシールドに交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーにはライトスモークシールド・セミスモークシールドがお勧めです。

FCS採用ヘルメットのかぶり方

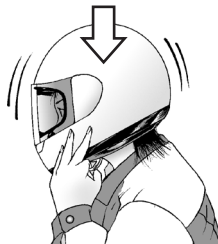


FCSは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかり持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにする事で前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



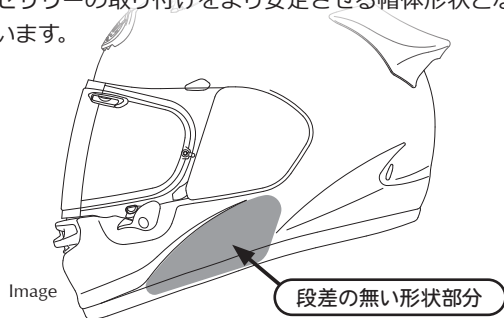
天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。



Racing Specialities

アストロGXの特長

アストロGXの頬部は、市販の通信システムヘルメットアクセサリーの取り付けをより安定させる帽体形状となっています。



GX EP システムパッド

FCSを取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

GX EP システム内装

海外市場で高い評価を受けているアライの固定内装の優れたかぶり心地を着脱式内装でも再現すべく開発されたフルシステム内装は、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィッティングを実現。

VAS-Vロック

RX-7Xで初採用された、レバーによる強固なシールドロックシステムであるVAS-Vロックは、衝撃によるシールドの不意の開放を可能な限り防ぎます。

フロントロゴダクト

額部分に備わったフロントロゴダクトにより、外気をヘルメット内部へ導きます。

Gフローダクト・GT スポイラー

前方の左右に備わったGフローダクトで外気をヘルメット内部へ導きます。GT スポイラーは、ダクト内の三ヶ所の排気口から、ヘルメット内部にこもる熱気の排出を行います。

ブローベンチレーション

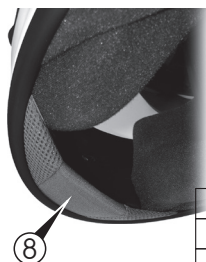
ブローシャッターから取り入れられた外気は、インナーダクトによってヘルメット内部へと導かれます。

マウスシャッター

口元とシールド方向に外気を導く、スライド方式のマウスシャッターを採用。

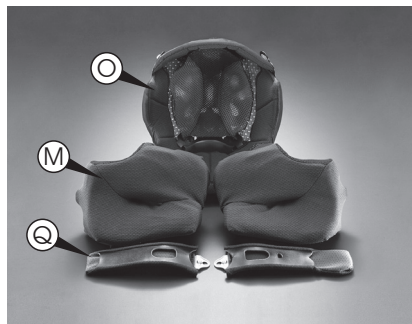
固定式エアフロラップ

走行時のヘルメット下部を流れる空気を整え、風の巻き込みを抑えます。



- ①フロントロゴダクト
- ②Gフローダクト
- ③ブローベンチレーション
- ④マウスシャッター
- ⑤VAS-Vロック
- ⑥サイドエキゾースト
- ⑦GT スポイラー
- ⑧固定式エアロフラップ

当取扱説明書の21ページにおいて、
通信システム取り付けについてのご案内を行っています。



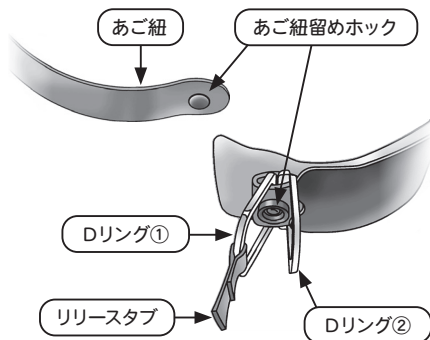
GX EP フルシステム内装

目次		ページ
安全のために守って頂きたいこと		2 ~ 11
A	あご紐の正しい締め方	14 ~ 15
B	デミストポジションについて	16
C	シールドの開閉	17
D	ブローシャッターの操作	18
E	マウスシャッターの操作	
F	フロントロゴダクトの操作	19
G	Gフローダクトの操作	
H	GT スポイラーの操作	20
I	ディフレクターの着脱	
J	シールドの着脱	24 ~ 27
K	シールドベースの着脱	28
L	ストリングの着脱	30
M	システムパッドの着脱	31 ~ 32
N	パッドカバーの着脱	34 ~ 35
O	システム内装の着脱	36 ~ 37
P	ヘルメットのサイズ調節	39
Q	ストラップカバーの着脱	40 ~ 41
R	ヘルメットのお手入れ	42 ~ 43
S	オプションパーツリスト	44 ~ 45

A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。

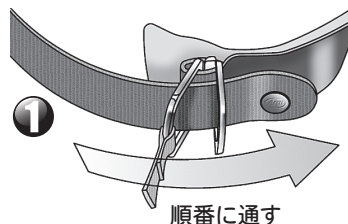
あご紐の各部名称



①二つのDリングに通す

あご紐を、Dリング①→Dリング②の順番に中に通します。

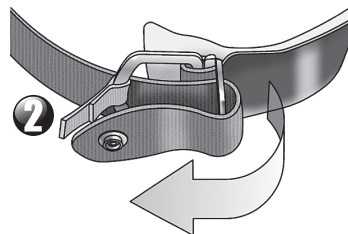
※あご紐を通す際には、途中で捻れないように注意してください。



順番に通す

②あご紐を180°折り返す

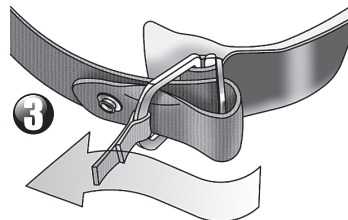
Dリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱり、弛みを取り除きながら180°折り返します。



180° 折り返す

③Dリング①に再び通す

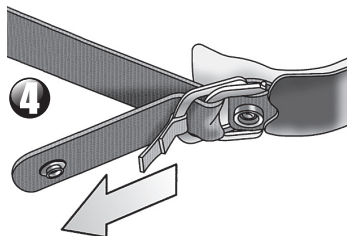
折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



Dリング①に通す



あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

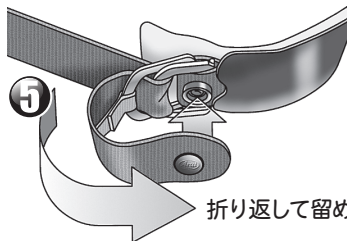


④あご紐を引っばる

あご紐の先端部を持ち矢印の方向に引っばると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1～2本さし入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人さし指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人さし指一本で確認しましょう。



⑤余った先端部を留める

【あご紐留めホック】で余ったあご紐の先端を留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへのあご紐の付着を防止できます。

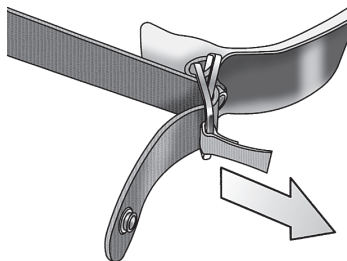
乗車服や雨合羽などの襟元の面ファスナーにあご紐が付着すると、後方確認時に首の動きを妨げるおそれがあります。また、面ファスナーにあご紐が付着すると毛羽立ちの原因になります。



折り返して留める

リリースタブの使い方

【あご紐留めホック】を外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っばると、あご紐を簡単に緩めることができます。



Dリングに通さず、あご紐留めホックで留めただけの状態であご紐を持たないでください。
あご紐留めホックが外れてヘルメットが落下し、破損させるおそれがあります。

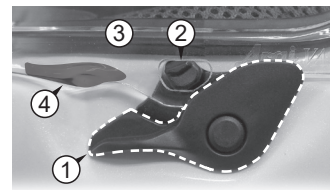


VAS-Vロックについて

VAS-Vシールドは、四輪用ヘルメットのGP-6で採用されたレバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたVAS-Vロックによってシールドがロックされ、外圧や衝撃による不意のシールド開放を可能な限り防ぎます。

VAS-Vロック各部名称

- ①Vロックレバー（点線部）
- ②Vロックベース
- ③シールド
- ④シールドの指かけ



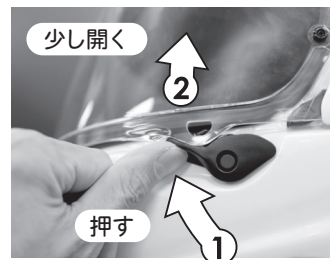
B デミストポジションについて

シールドロックからデミストポジションへ

[Vロックレバー]前方を親指の腹で押し上げると、シールドロックが解除され、シールドが少し開いて隙間が生じます。この状態を「デミストポジション」と呼称し、隙間から入り込む外気はシールドの曇りを軽減します。



ココを押し上げる



デミストポジションからシールドロックへ

[シールドの指かけ] の上に指をかけてデミストポジションから更にシールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



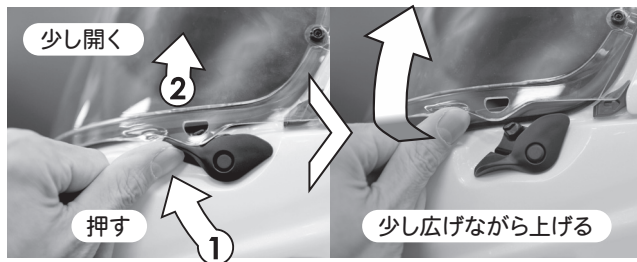
シールドロック完了

C シールドの開閉

シールドの開き方（シールドロックの解除）

〔Vロックレバー〕 前方を親指の腹で押し上げるとシールドロックが解除され、シールドは一旦デミストポジションに移動します。

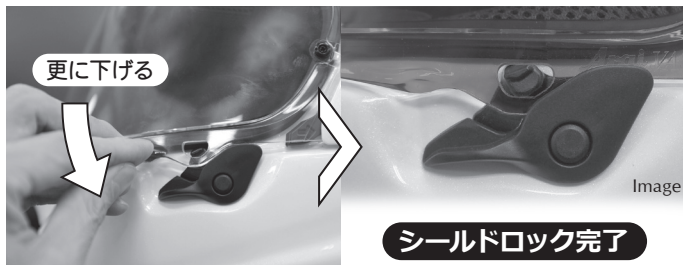
次に、〔シールドの指かけ〕 の下に指を移し、**少し外側に広げながら**シールドを上げます。



シールドの閉じ方（シールドロックの方法）

シールドを閉じる際は、先ずデミストポジションまでシールドを下げます。

次に、〔シールドの指かけ〕 の上に指をかけて**デミストポジションから更に**シールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



シールドのロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。

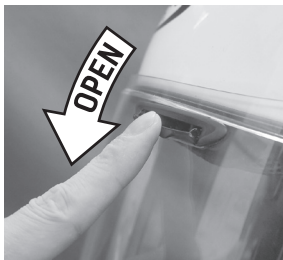


Vロックレバーは絶対に下向きに押さないでください。シールドのロック機構が損なわれるおそれがあります。

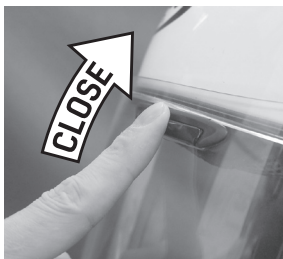


D ブローシャッターの操作

ブローシャッター中央の膨らみに指をかけ、引き下げるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。



ブローシャッター中央の膨らみを押し上げるとシャッターが閉じ、外気の流入は止まります。

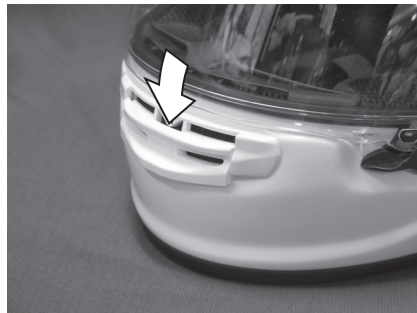


雨天時は吸気側にあたるダクト類のシャッターを全て閉じてヘルメットをご使用ください。
尚、シャッターを閉じてても水や空気を完全には遮断できませんので、予めご了承ください。



E マウスシャッターの操作

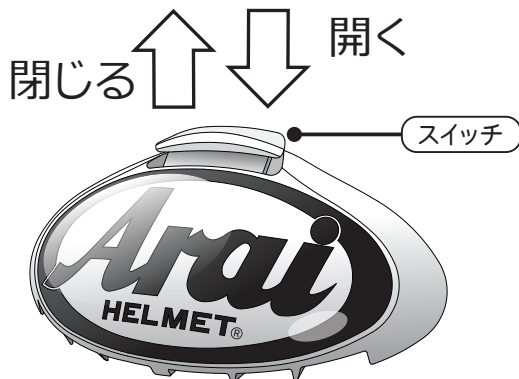
シャッタープレート上部の中央に指をかけ、まっすぐ引き下げてください。シャッターを閉める際は、シャッタープレートが傾かないように中央をまっすぐ押し上げます。



F フロントロゴダクトの操作

ダクト上部中央のスイッチを押し下げるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。

スイッチを引き上げるとシャッターが閉じて外気の流入は止まります。



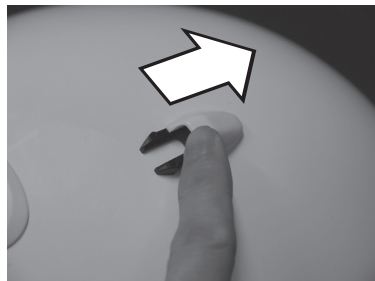
雨天時は吸気側にあたるダクト類のシャッターを全て閉じてヘルメットをご使用ください。尚、シャッターを閉じてても水や空気を完全には遮断できませんので、予めご了承ください。



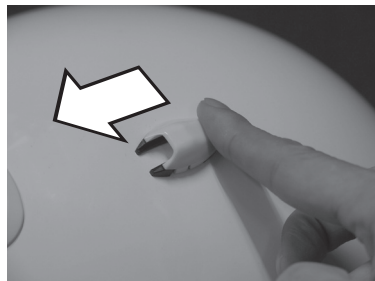
G Gフローダクトの操作

ダクトカバーを後方に（ヘルメットの前後に準じます）スライドさせるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。ダクトカバーを前方にスライドさせるとシャッターが閉じ、外気の流入は止まります。

開く

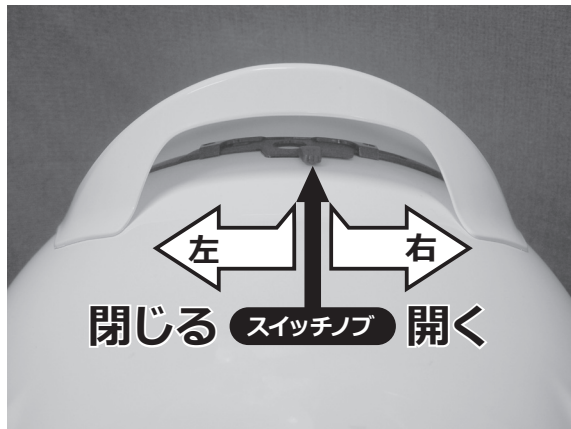


閉じる



H GT スпойラーの操作

排気口から出ているスイッチノブを（ヘルメットを後から見て）右にスライドさせるとシャッターが開き、ヘルメット内にももる空気を排出します。スイッチノブを左にスライドさせるとシャッターが閉じて排出は止まります。



I ディフレクターの着脱

ディフレクターの外し方

差し込まれているディフレクターの端をしっかりと掴み、真っ直ぐ引き上げるとディフレクターを外すことができます。

呼気ブロック効果があるディフレクターは、その有無を自由に選択できます。



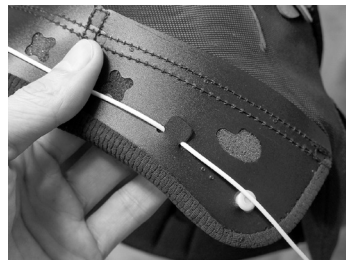
ディフレクターの付け方

ディフレクターの中心とヘルメットの中心を合わせ、窓ゴムとセンターパッドとの隙間にディフレクターのフックを奥までしっかりと差し込んでください。

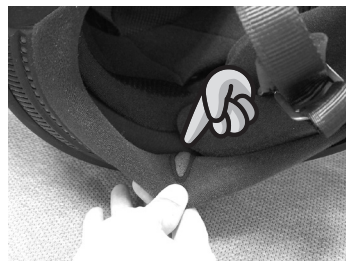


通信システムの取り付けについて

システム内装の首元には、通信システムのコードを保持する為の【通信システム専用フック】が設けられています。ご使用の際は、右写真のようにコードをフックで挟み込んでください。



ネックパッドの左下をめくると、通信システムの余ったコード等を収めることができる【通信システム専用ポケット】が見えます。通信システムのコード等を収める際は、出っ張ったり、きつく折り曲げないようにご注意ください。



お客様へのお願い

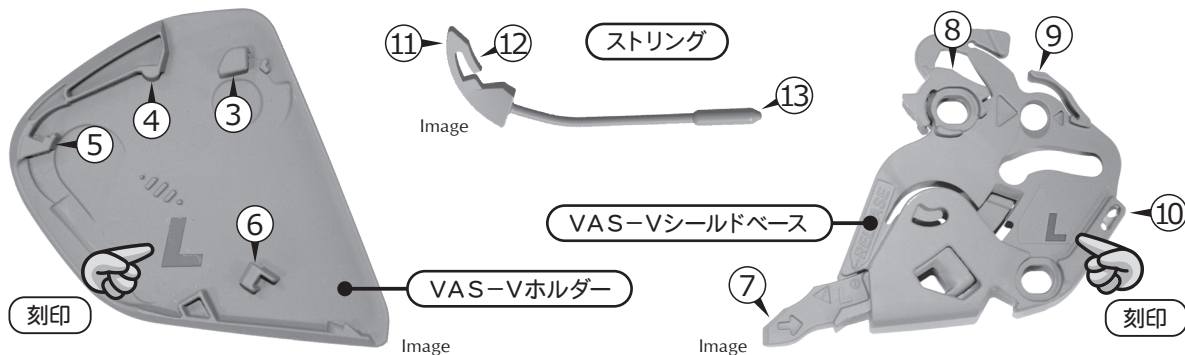
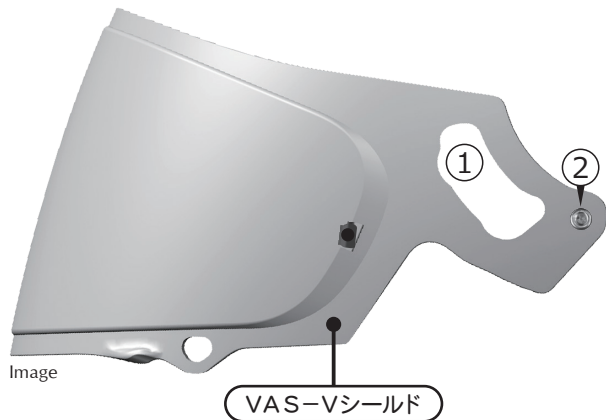
ヘルメットに通信システムを取り付ける際は、お買い求めの通信システム取扱説明書、または通信システム販売メーカーのWebサイトをご参照になり、適切な位置に取り付けてください。



Racing Specialities

VAS-V構成パーツの各部名称

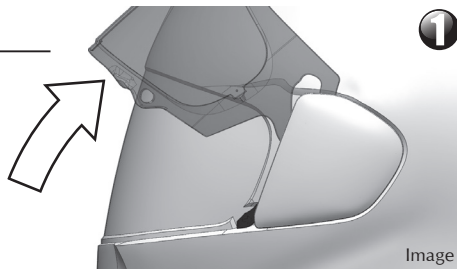
VAS-Vシールド	1	摺動穴 (物が滑って動く穴)
	2	シールドピン
VAS-Vホルダー (L・左側)	3	上部フック (前)
	4	上部フック (後)
	5	ストリング用マウント
	6	下部フック
VAS-V シールドベース (L・左側)	7	VAS-Vリリースレバー
	8	上部フック受け (前)
	9	上部フック受け (後)
	10	ストリング用マウント
ストリング	11	フック
	12	返し
	13	アンカー



J シールドの着脱

シールドの外し方

①シールドを開いて全開にします。※図ではVロックレバーが省略されています。

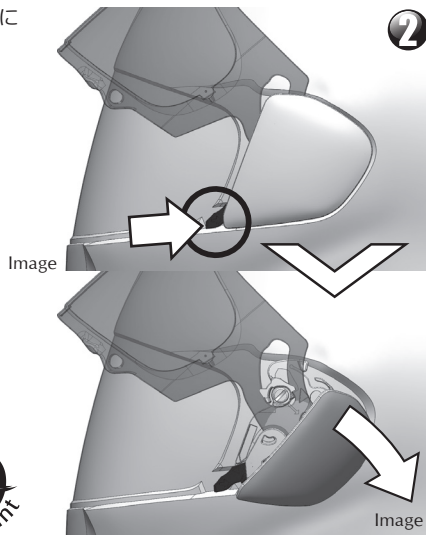


②ホルダーの前方に見える【VAS-Vリリースレバー】を、刻印された矢印の方向に押し込みます。すると、ホルダーのロックが解除されてホルダーが外れます。

リリースレバーは、止まる位置までしっかり押し込んでください。

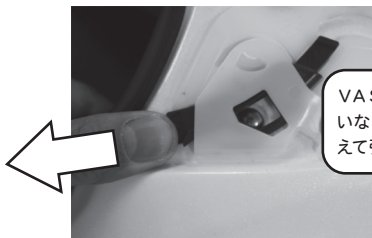
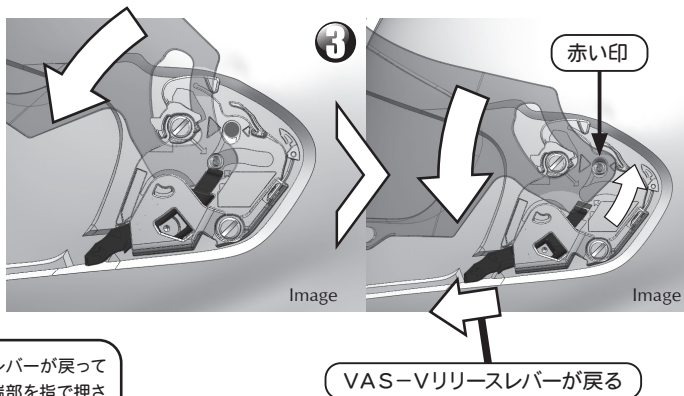


ホルダーとシールドベースは、落下防止用のストリングで繋がっています。



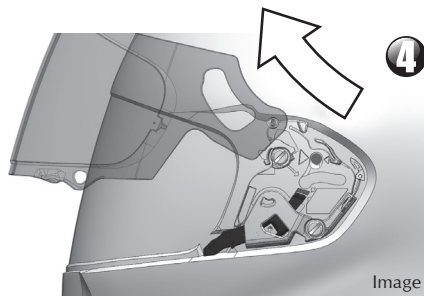
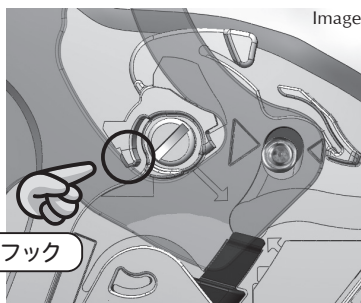
③ VAS-Vリリースレバーが押し込まれた状態でシールドを下げると、シールドは通常の開閉とは異なる動きをします。シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール（～の形をした溝）から離脱して、シールドベースから覗く赤い印の位置に移動します。その際、VAS-Vリリースレバーは元の位置に戻ります。

※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。



④ この時シールドは、シールドベース側に一箇所のフックで留められているだけなので、シールドを後方からめくことでシールドベースから簡単に取り外すことができます。

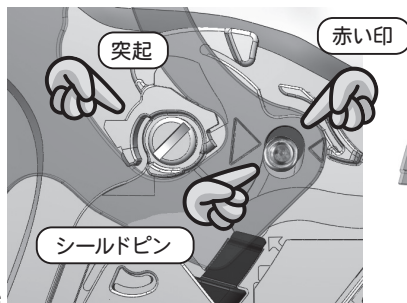
反対側も同様の手順で取り外しを行います。既に取り外しを行った側のシールドピンがヘルメットに接触しないようにご注意ください。



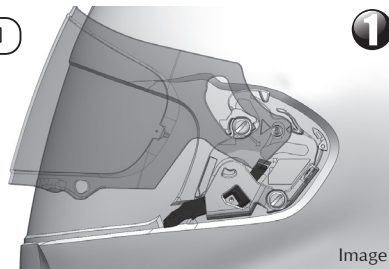
シールドの付け方

①シールドベースに設けられた突起（可変軸受け）にシールドの摺動穴の下側を合わせます。そして、シールドピンをシールドベースから覗く赤い印に重ね合わせます。

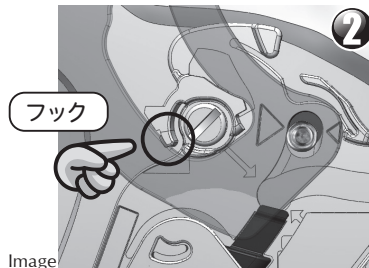
Image



1



②フック部分のシールドを上から押して、フックの下に入り込ませます。

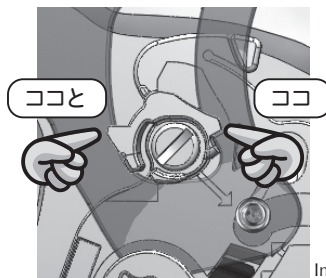


Image

2

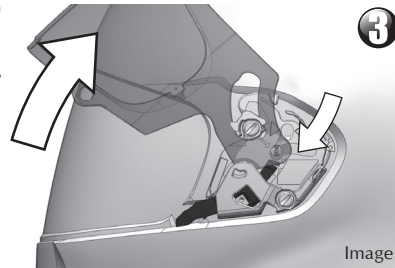
③シールドを上げると、シールドピンがシールドベースに設けられたガイドレール（～の形をした溝）に入り込みます。

※ストリングで繋がったホルダーは省略しています。



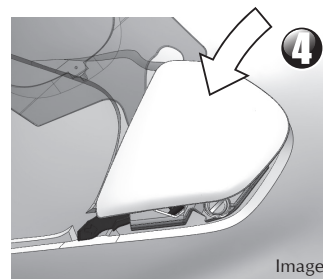
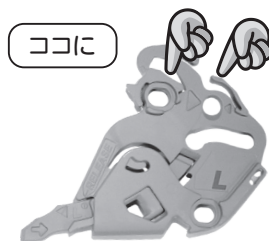
Image

ベースの指で示した部分がシールドの上にかぶさっている事を確認して、シールドを上げます。

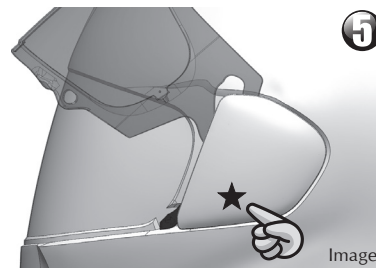


3

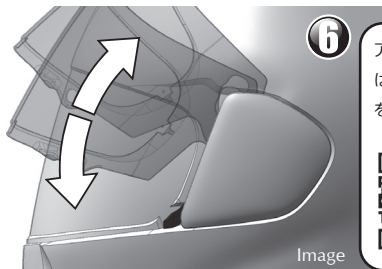
④ホルダーの上部二カ所のフックを、シールドベースの上部の窪みに引っかけます。



⑤ホルダーの外周とヘルメットの段差の形を合わせ、★印付近を押してホルダーをロックさせます。この部分の裏側には下部フックが設けられています。



⑥反対側も同様の手順で取り付けを行ってください。最後にシールドを数回上下させ、正しく取り付けられているかどうか確認を行います。



シールドやホルダーの取り付けが不完全な場合、走行中に外れるおそれがあります。必ず動作確認を行ってから、ヘルメットをご使用ください。



アライヘルメットのホームページでは、VAS-Vシールドの着脱方法を動画配信しています。

動画配信QRコード

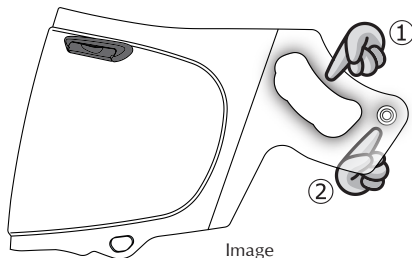


※QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。通信料はお客様のご負担となります。予めご了承ください。

シールドの動きが渋くスムーズでない場合は

一旦シールドを取り外し、市販の綿棒に潤滑シリコンを少量含ませてシールドの摺動穴周辺①と内側に突き出たシールドピンの軸周り②に塗布します。その後、シールドをヘルメットに取り付けて数回上下に動かして潤滑シリコンを十分に馴染ませてください。

新品のシールドを取り付ける時にも、
潤滑シリコンを塗布してください。



潤滑シリコン

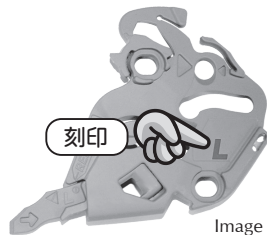
K シールドベースの着脱

シールドベースの外し方

シールドベースの二本のネジを、10円硬貨などで左に回して取り外します。

シールドベースの付け方

シールドベースの左右を刻印で確認し、ネジは初めに手で右に回し、確実にネジ穴に入っていることを確認してから10円硬貨などで軽く回し、止まった位置から**四分の一回転未満**が締める目安です。ネジの締め忘れや締めすぎには十分ご注意ください。



シールドベースの着脱や交換を行ったり、標準装備のシールドとは異なる種類のシールドに付け替えた際、ヘルメットへのシールドのアタリ（密着具合）がきつく、または緩くなってしまう場合があります。
そのような時には、次のページでご案内する「シールドベース調整によるフィッティングの最適化」を行なってください。



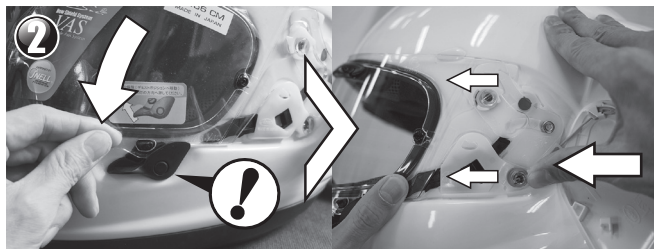
シールドベース調整によるフィッティングの最適化

①VAS-Vリリースレバーを操作して左右のホルダーを外します。動かしたVAS-Vリリースレバーをリセット（元の位置に戻す）させるため、シールドを一旦シールドベースから外してから再度取り付けます。その後、シールドベースが自由に動かせる程度に10円玉などの硬貨を使って四本のネジを少しだけ緩めます。

リリースレバーは、止まる位置までしっかり押し込んでください。



②シールド側の指かけに指をかけ、カチッ!と止まる位置（ロック完了位置）まで確実にシールドを引き下げてください。次に、シールドベースがシールドに接するように位置を整えます。止まる位置までシールドベースを前方に押しってください。



③シールドを手のひらでシールドベース側に押し、シールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってからシールドを開き、左右のホルダーを取り付けます。



L スtringの着脱

ホルダー側のフックの外し方

Stringのフックの返しを爪の先で押しなが
ら引き抜きます。



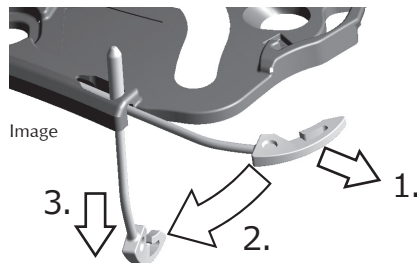
ホルダー側のフックの付け方

Stringのフックを、ホルダーのマウントに奥
までさし込みます。



シールドベース側のアンカーの外し方

ヘルメットから取り外したシールドベースからStringを全て引き出し
ます。そして、シールドベースの下側に向け90度折るように曲げるとシー
ルドベースから外れます。

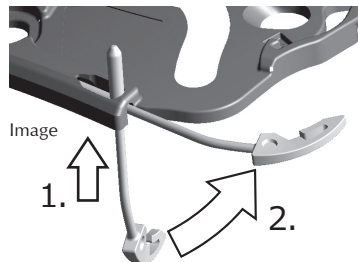


シールドベースを外さないで、
Stringのアンカーは外せ
ません。



シールドベース側のアンカーの付け方

シールドベース後方の丸穴にStringのアンカーを裏からさし込んで、
シールドベースに設けられた溝に収まるように90度持ち上げます。



Stringを付けずにヘルメットを
ご使用になると、シールドの着脱の
際、ホルダーを床や地面に落とすお
それがあります。

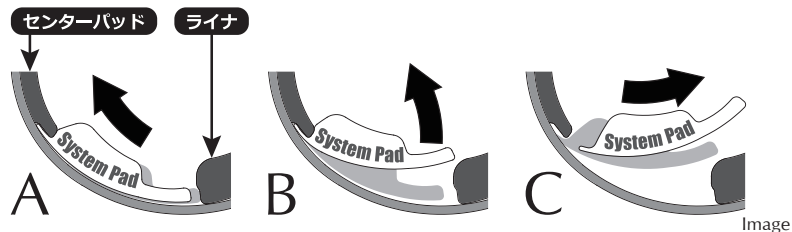


M システムパッドの着脱

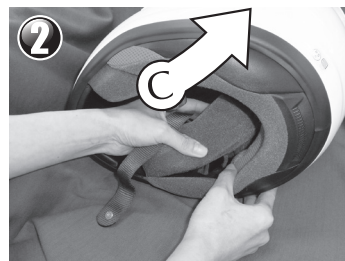
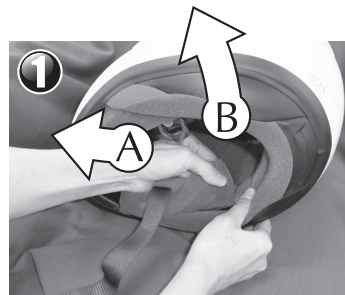
システムパッドの外し方

①システムパッドを掴み、センターパッド側に押し付けてライナへの引っかかりを解除します。(下図A) そして、システムパッドの後方を持ち上げます。(下図B)

②システムパッドの後方が外れたら、斜め後方に抜き取ります。(下図C)



システムパッドが取り付けられている位置



「前さし式」のシステムパッドを外す際はパッドの後ろ側を持ち上げます。前方を無理に持ち上げるとパッド本体が破損しますのでご注意ください。

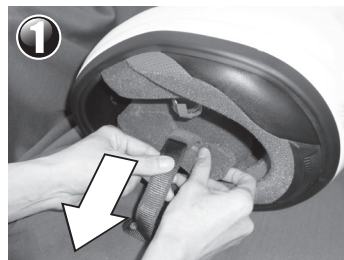
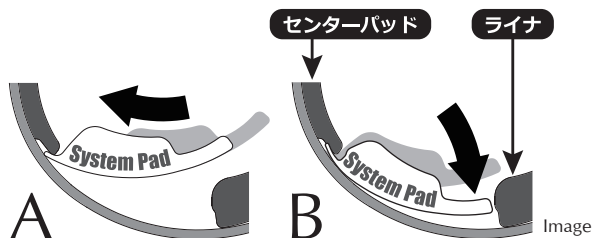


システムパッドの付け方

①システムパッド裏の表示ラベルで左右を確認し、取り付けを行う側のシステムパッドの中央の穴に予めあご紐を通しておきます。

②システムパッド前方のツメから先にヘルメットにはめ込みます。センターパッドの隙間にシステムパッド前方のツメを奥までさし込みます。(下図A)

③システムパッドの後方を、ヘルメット側へ押し付けてはめ込みます。(下図B) 最後に、あご紐を引っぱって弛みを取り除きます。



システムパッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。また、システムパッドを付けずにヘルメットを着用するのも大変危険です。

調節パッドによるサイズの調節

システムパッドには、容易に剥がして厚み変更ができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを5mmほど薄くでき、フィット感を緩くすることができます。

調節パッドの取り除き方

システムパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終わったら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。

調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。尚、剥がしたパッドは再利用できません。お住まいの地域の、軟質ポリウレタンフォーム製品の分別ルールにしたがって廃棄してください。



インカムホールについて

システムパッドからカバーを外し、耳の穴にあたる位置の丸いパッドを剥がすと、ヘルメットスピーカーを取り付けるスペース（インカムホール）ができます。



直径が5cm未満の、薄型タイプのヘルメットスピーカーをご使用ください。



N パッドカバーの着脱

パッドカバーの取り外し

①システムパッド後部から先にパッドカバーを外します。そして、パッドカバー全体をパッド本体から外します。

②パッド裏面のストッパー（あご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ってカバーを引き出します。カバーを引き出す際には、パッド本体（発泡スチロール製）を壊さないようにご注意ください。

取り外したカバーは洗濯機で洗うことができます。（洗濯ネットを推奨）パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。



パッドカバーとパッド本体の左右の確認方法

パッドカバーとパッド本体には、左（Left）右（Right）が、縫い付けラベルや布製シールによって表示されています。



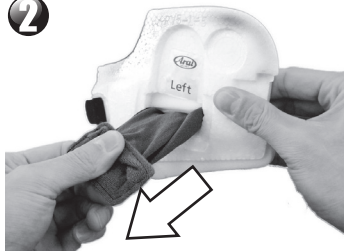
パッド本体表示



1



2



パッドカバー表示



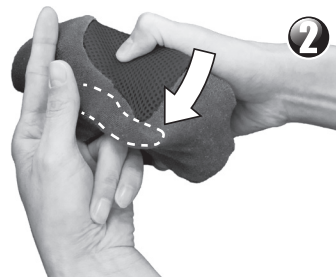
パッドカバーの取り付け

①ラベルやシールによってパッド本体とカバーの左右が確認できたら、①のように爪が付いたパッド前方からカバーをかぶせます。位置が整ったら後方部分にもカバーをかぶせます。

必ず、同じ方向の表示ラベル
をペアにしましょう。



②カバーをかぶせた直後は、ウレタンの角がカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するので、ウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、パッドの頬にあたる面の中央の穴に指を入れ、パッドカバーを指先でグイッと引っ張り上げます。すると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復しますので、パッド周囲を一周分引っ張ってください。



③パッドの中央の穴にストッパーを縦向きに通し、横向きに直してパッド裏面の窪みに収めます。この時、パッドを貫通する穴がねじれて塞がれないようにご注意ください。

3



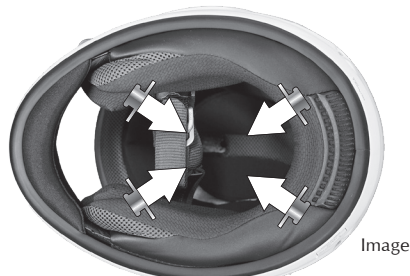
エマージェンシータブがパッドカバーから飛び出している、またはパッドカバー内部に隠れている場合は、左の写真を参考に位置の調節を行ってください。



○ システム内装の着脱

システム内装の外し方

①内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内面に取り付けられています。それぞれのホックになるべく近い枠（保持プレート）を持ち、ヘルメットの中心に向けて引っばってホックを取り外してください。



それぞれのホックを引っばる向き

②ヘルメット内で半球形に開いているシステム内装を折り畳んで取り出します。

外したシステム内装は、折り癖がつかないように広げておいてください。



システム内装の付け方

①内装の前後の向きに注意して、半球形に開いているシステム内装を折り畳んでヘルメット内に収めます。そして、ヘルメットの内部で元の形に広げます。

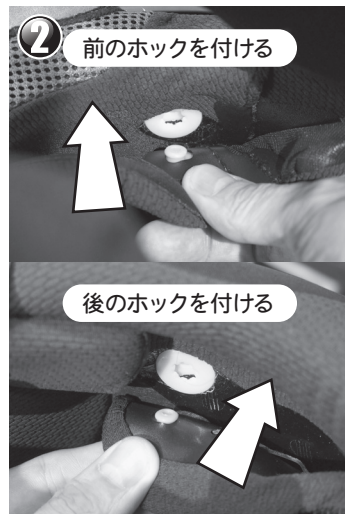


②内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。

かぶり心地に影響を及ぼしますので、システム内装取り付け完了後に内装の歪みを必ず整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に設けられたプロテクターやエアダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。

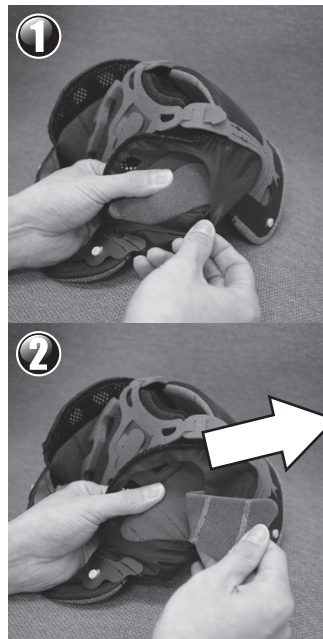


調節パッドによるシステム内装のサイズ調節

システム内装には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で約4mm薄くすることができます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。

②調節パッドは、本体パッドにストライプ状に部分接着されているので丁寧に剥がしてください。その後ポケットを閉じてシステム内装の形を整え、ヘルメットに取り付けてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようにご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。

P ヘルメットのサイズ調節

標準装備の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で頭周りと頬部のサイズ調節が行えますが、頭周りに関してはヘルメットのサイズによって調節範囲が「ゆるくなる」「きつくなる」のどちらかに限定されます。システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には標準設定をご参照のうえ、お買い求めください。

システム内装交換による頭周りの調節

システム内装は、右の表のような頭周りのサイズ調節が行えます。お客様がお持ちのヘルメットの標準設定内装をご確認の上、正しいサイズのシステム内装をお買い求めください。

ヘルメットサイズ	システム内装表示		
54	Ⅱ-7mm	Ⅱ-10mm	
55 - 56		Ⅱ-7mm	Ⅱ-10mm
57 - 58	Ⅲ-7mm	Ⅲ-10mm	
59 - 60未満		Ⅲ-7mm	Ⅲ-10mm
61 - 62未満		Ⅳ-7mm	
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

システムパッド交換による頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通で、右の表のようなサイズ調節が行えます。お客様がお持ちのヘルメットの標準設定内装をご確認の上、正しいサイズのシステムパッドをお買い求めください。

ヘルメットサイズ	システムパッド表示		
54	20 mm	25 mm	
55 - 56	15 mm	20 mm	25 mm
57 - 58			
59 - 60未満	12 mm	15 mm	20 mm
61 - 62未満			
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

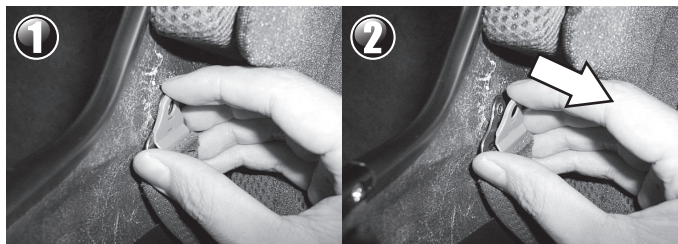
システムパッドの厚さを標準よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。



Q ストラップカバーの着脱

ストラップカバーの取り外し

①あご紐基部の金属製アンカーにかぶさっている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】をしっかりと持ちます。



②カバーハンガーを上の方からめくるようにして、金属製アンカーから取り外します。

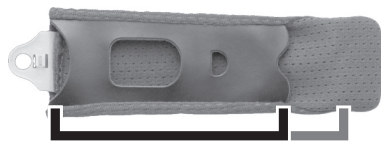
③ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側のストラップカバーも同様に外してください。

ストラップカバーの大きさは、ヘルメットサイズによって異なりますので、パーツリストをご参照ください。

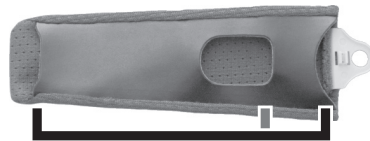


ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。ストラップカバーは合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。



左側：合皮の部分が短い



右側：合皮の部分が長い

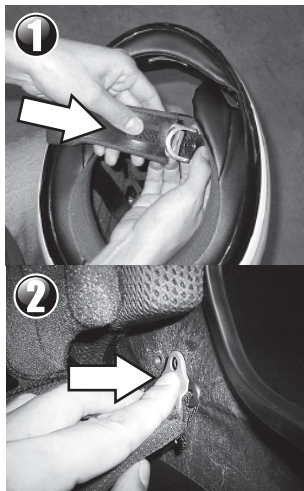
左側ストラップカバーの取り付け

①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、Dリング側のおご紐をカバーに差し込みます。

②カバーハンガーを、おご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。



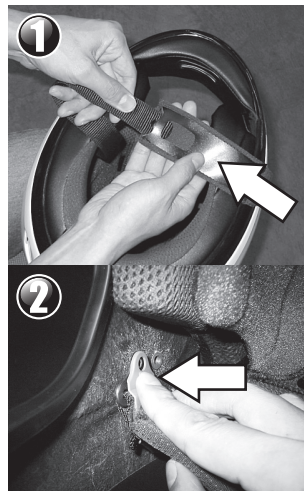
右側ストラップカバーの取り付け

①カバーの裏（合皮側）を手前に向け、長い方のおご紐をカバーに差し込みます。

②カバーハンガーを、おご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



おご紐は、刻印の入ったスナップの頭を上に向けてカバーに通します。



ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

R ヘルメットのお手入れ

シールドのお手入れ 【中性タイプの食器洗い洗剤を推奨】

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは水で薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールドの素材は、酸性やアルカリ性の洗剤を使用したり、アルコール成分を含むクリーナー類で拭いたり、シンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用するとシールドの素材が侵されシールドにヒビ割れが生じます。そして、万一の衝撃時に、そこをきっかけに破損するおそれがあります。また、シールドに取り付けられているパーツ類も破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で虫を拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。

パーツ類のお手入れ 【中性タイプの食器洗い洗剤を推奨】

ホルダーやベンチレーションダクトやVAS-Vロックの構成部品等のパーツ類は、洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。その後、水を含ませた布で洗剤成分をよく取り除き、自然乾燥させてください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。

ヘルメット本体の洗い方 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

ヘルメットを丸洗いする時は、ヘルメットからシールドや着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性タイプの洗濯洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメットの表面、あご紐、ヘルメットの内部を洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。

着脱式内装のお手入れ 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

着脱式内装をヘルメットから取り外して手洗いを行います。洗い終わったら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・ドライコース（手洗い）などの素材に負担をかけないモードを選択してください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。

※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

pHコントロール：抗菌消臭高機能生地について

pHコントロール：抗菌消臭高機能生地を使用した内装は、路上に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた際は、新しい内装をお買い求めください。

S オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号
VAS - V MVシールド	クリアー	011057
	セミスモーク	011056
	スモーク	011058
VAS - V MVピンロック120 (クリアー)		011079
VAS - Vダブルレンズシールド	クリアー	011063
	セミスモーク	011064
VAS - Vポスト付シールド	ライトスモーク	011053
	クリアー	011054
	スモーク	011055
VAS-V ティアオフシールド (クリアー 5 枚入)		011065
VAS - V PSプロシェードシステム※1		011070
VAS - V PSノンバイザーシールド		011071
VAS - V PSサンバイザー (スモーク) ※2		011073
VAS - V PS サンバイザーミラー※2	スモーク/シルバー	011074
	スモーク/レッド	011075
	スモーク/ブルー	011076
VAS - V PSピボットカバー		111138
VAS - Vシールドベース		021066
スーパーアドシスネジセット		112511
IPディフレクター		082391
ES チンカーV		075711

※1：VAS-Vプロシェードシステムを初めて導入されるお客様は、必要なパーツの全てが揃った当パーツをお買い求めください。

※2：サンバイザーは標準装備のシールドには取り付けできません。取り付けには、別途VAS-V PSノンバイザーシールドが必要です。

パーツ名		部品番号
VAS - Vホルダー	グラスホワイト	025429
	グラスブラック	025430
	フラットブラック	025432
	モダングレー	025404
	ブラチナグレーF	025412
G フローダクト (1個)	グラスホワイト	102005
	グラスブラック	102003
	フラットブラック	102004
	モダングレー	102006
	ブラチナグレーF	102009
	スモーク	102007
	フラットスモーク	102008
GT スポイラー (カバーのみ)	グラスホワイト	102035
	グラスブラック	102033
	フラットブラック	102034
	モダングレー	102036
	ブラチナグレーF	102039
	スモーク	102037
	フラットスモーク	102038
フロントロゴダクト	白 / 黒	102109
	白 / グレメタ	102105
	黒 / グレメタ	102104
	黒 / ライトグレメタ	102103
	モダングレー / 黒	102106

パーツ名		部品番号
GX EP システムパッド	12mm	055622
	15mm	055623
	20mm	055624
	25mm	055625
GX EP システム内装	Ⅱ-10mm	074405
	Ⅱ-7mm	074406
	Ⅲ-10mm	074408
	Ⅲ-7mm	074409
	Ⅳ-7mm	074412
RX-7X EP ストラップカバー	(54) (55-56) cm	073616
	大 (57-58) ~ (65-66) cm	073617

コットン生地への変更は上記の内装に行えます。
尚、コットン生地は、標準内装生地とは色合いが異なりますので予めご了承ください。



アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行なっていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカatalogやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

内装生地のコットン化について

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン（綿100%）内装の製作ご相談も、アライヘルメット品質管理課で受け付けています。

アライヘルメット品質管理課 ☎048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）

コットン生地への変更は
着脱式内装のみ行われます
なおコットン内装の色は
標準内装とは異なりますので
予めご了承ください



▼エマージェンシータブについて

エマージェンシータブとは、救護者が傷病者のヘルメットを脱帽させる前段階として、脱帽時の抵抗となる頬パッドの除去をスムーズに行うことを目的としたシステムです。

救護者は、頬パッドのカバー等に縫い付けられた目印（E T ポイントラベル）で傷病者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応している事を認識できます。



エマージェンシータブによる頬パッドの除去は、当システムを十分に理解した上で、ヘルメット脱帽の訓練を経験した救護者によって行ってください。尚、事故状況や傷病者の状態によっては、エマージェンシータブが頬パッドの取り外しを確実にこなう有効な手段とならない場合があります。

エマージェンシータブによる頬パッドの除去の前に行うこと

救護者は傷病者の頭部及び頸椎保護のため、ヘルメットをしっかりと保持してあご紐を予め外しておく。尚、あご紐を外せない場合は切断する。

①エマージェンシータブを確認

傷病者のヘルメットを観察し、ヘルメットに設けられたエマージェンシータブの目印（E T ポイントラベル）を確認する。



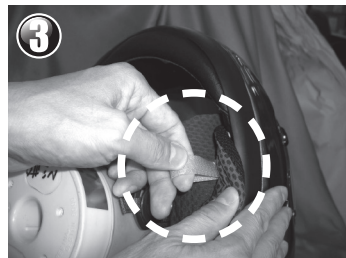
②ETポイントラベルを摘んで、引き出す

上記のETポイントラベルを摘んで引っぱると、パッド内部からエマージェンシータブが出現します。



③エマージェンシータブに指をかける

エマージェンシータブのループ状になった部分に指をかける。



④エマージェンシータブを引く

エマージェンシータブを、ヘルメットに対して下に向けて（図を参照）まっすぐ引く。尚その際、傷病者の頭部が動かないようにヘルメットをしっかりと支えます。



⑤頬パッドを引き出す

頬パッドを、そのユニットごと引きずり出します。尚、ネックパッドと頬パッドの一部が接合されている場合がありますが、頬パッドを引きずり出す過程で分離します。



⑥頬パッドの除去完了

右側（救護者から見て）の頬パッド除去が完了。反対側も同じく作業を行う。





株式会社 アライヘルメット

☎ 330 - 0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 ☎ 048 - 641 - 3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎ 048 - 645 - 3661 受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）